

東京 肝臓のひろば

令和8年(2026年)8月号 第273号

特定非営利活動法人 東京肝臓友の会

〒161-0033 東京都新宿区下落合4-27-5-201
電話 (03) 5982-2150 振替 00120-6-40564
FAX (03) 5982-2151 口座名 東京肝臓友の会
<http://www.tokankai.com>



世界遺産 原爆ドーム ～広島県広島市～

切り絵 佐藤廣士さん

肝炎患者様へ

令和8年熊本地震による被災に伴う 肝炎ウイルスの治療薬や受診に関して

○(前提として) お薬の服用は中止しないようお願い致します。

○お手元にお薬がない場合は、原則、医師の処方箋が必要ですが、
お近くの医療機関が被災等により受診できないときは、
処方箋の提出ができなくても、
薬局でお薬を購入できる場合があります。
(受付可能かどうかは、お近くの薬局までお問い合わせください)

※服用できない期間があった場合は、その期間の分は服用しないでください。決して一度に複数回分をまとめて服用しないでください。

※特にB型肝炎に対する抗ウイルス薬(核酸アナログ製剤)を服用中の患者さんは、お薬を中止すると、肝炎が悪化して重症化する危険性があります(一般には、1~2週間程度の中止では、服用を再開すれば肝炎が悪化することはないと言われています)。

※C型肝炎に対する抗ウイルス薬を服用中の患者さんも、
お薬を中止すると、治療効果が低下する可能性があります。
できる限り、中止しないようにしてください。

○肝炎治療受給者証や、肝がん・重度肝硬変治療の参加者証の
提出ができない場合でも受診できます(助成を受けられます)。

※医療機関において、受給者証又は参加者証の交付を受けている者であることを申し出いただき、氏名・生年月日等を確認します。
被保険者証等を提出できない場合も同様に受診できます。

【お問合せ先】

熊本県健康危機管理課 TEL: 096-333-2783

熊本県肝炎診療連携拠点病院(熊本大学附属病院) 肝疾患相談センター TEL: 096-372-1371

2026年7月28日熊本で大きな地震がありました。熊本県と肝疾患診療連携拠点病院より
お薬に関するお知らせが届きましたので、掲載します。

もくじ | Index |

東京肝臓のひろば 273

2 熊本県、肝疾患診療連携拠点病院からのお知らせ

3 第221回国会における請願結果について
東京肝臓友の会からのお知らせ

4 アフリカで生きる日本の経験
「肝炎プロジェクト」ブルキナファソ報告
ピースウインズ・ジャパン 村田菜々子さん

14 ラジオNIKKEI「大人のラヂオ」2026年5月8日放送から
「最近の肝疾患診療のトピックス」
ゲスト 国立病院機構 長崎医療センター名誉院長 八橋 弘 先生

30 PBC・AIH・PSC通信

32 ジコメン・メディカル
帝京大学医学部付属病院 田中篤先生

33 活動日誌(4月、5月)

34 情報BOX
患者会からの行事案内 医療講演会のお知らせ

第 221 回 国会における請願結果について

第221回国会における日肝協の請願「ウイルス性の肝がん・重度肝硬変患者への支援とB型肝炎ウイルスを排除する薬剤の開発に関する請願」の審査結果は、**衆議院、参議院両院にて採択**されました。

また、「自己免疫性肝疾患患者への支援と治療薬開発を求める請願」は、残念ながら衆議員、参議員両院とも審議未了となりました。一般社団法人 日本難病・疾病団体協議会の請願は採択されています。詳細はPAP通信のページでご確認ください。

みなさまのご協力に感謝いたします。ありがとうございました！

会費の振込について 記名のお願い

日頃より、東京肝臓友の会の活動にご支援をいただきまして、御礼申し上げます。
会費入金の際、振込用紙にお名前がない方が多くいらっしゃいます。

また、振り込んでいただく際にお名前がないと、

どなたが振り込んだのかまったくわからず、会費未納となってしまう
場合があります。会費をお振り込みの際、振込用紙に必ずお名前を記入いた
くよう どうぞよろしくお願いいたします。

振込用紙

払込人住所氏名	
	日本 太郎

ご記名を忘れずにお願いします。

ゆうちょダイレクト

ご依頼人名	任意	
日本 太郎		様



アフリカで生きる日本の経験

「肝炎プロジェクト」ブルキナファソ報告

ピースウィンズ・ジャパン 村田菜々子



※ 2023 年に日肝協が主催した「第 11 回 世界・日本肝炎デーフォーラム」に参加いただいたブルキナファソの患者団体のみなさんのその後をお伝えします。レポートは NPO 法人ピースウィンズ・ジャパンの村田菜々子さんです。

遠くアフリカで猛威を振るう
肝炎、日本との共通点とは

ウイルス性肝炎が今、世界で「悪い意味で」ホットな病気であることをご存じでしょうか。世界保健機関(WHO)が発表した最新の世界肝炎レポートでは、2024年にウイルス性肝炎で亡くなった方は全世界でおよそ134万人(うちB型肝炎が110万人)となりました。

た。同年のエイズ犠牲者の倍以上に膨らみ、世界三大感染症(結核、エイズ、マラリア)と呼ばれる病気のどれよりも、多くの人命を奪う感染症となっています。

死亡者数の多いB型肝炎が特にまん延しているのが、アフリカや西アジアです。WHOによると、アフリカで慢性的にB型肝炎を患っている人の割合は2024年時点





で5.1%。世界平均の2.9%を大幅に上回り、国・地域によっては8%を超えるところもあります。必然的に、亡くなる人も多くなります。

医療・保健体制に課題を抱える国も多いアフリカで「肝炎の犠牲者が多い」と言われても、驚きはなにかもしれません。ですが、現場の肝炎対策が抱える大元の問題は、実は日本と大差ないのです。「検査しないから気づかない」、「症状が

ないから治療しない」という肝炎特有の難しさに起因する課題が、アフリカにおいても障壁になっています。

だからこそ、日本の知見が文化も環境も異なるアフリカの国々においても役立つ可能性を秘めています。これまで日本が肝炎との闘いで重ねてきた苦労や努力が、きつと世界のためにもなるはず——そんな想いから、私たちピースウィズ・ジャパンの「肝炎プロジェクト」は始まりました。

患者会に支えられた

ブルキナファソでの活動

実はこのプロジェクトは、これまで患者会の皆さんにも支えられてきました。

私たちピースウィズは、広島県神石高原町に本拠を置く日本生まれの国際NGOです。1996



年にイラクでの国際人道支援活動から始まったこの団体は、「危機にさらされた命を救う」をモットーに国内外の災害支援、保護犬・猫活動、地方創生に子ども支援と、この30年で活動の幅を大きく広げてきました。このNGOらしからぬ拡大志向が後押しとなり、かつて全
国B型肝炎訴訟の弁護士・原告団事務局に勤めていた職員の榛田(はりた)が2023年、自らの思いを

実現すべく団体内で「肝炎プロジェクト」を立ち上げるに至りました。

今、このプロジェクトの活動の中心は、西アフリカの内陸国・ブルキナファソです。世界最貧国の一つとされ、日本の7割程度の国土に2、400万人あまりが暮らしています。農耕民族、遊牧民族などさまざまな民族が共存し、使われている言語は約60に及びますが、





かつてはフランスの植民地であったためフランス語を話す人も多くいます。国名は「高潔な人びとの国」を意味し、国民性は温和でまじめ、勤勉と評価されています。

そんなブルキナファソは、B型肝炎の有病率が国民の9%に上ると言われます。肝炎がこれだけ多いにもかかわらず、国民は実態をほとんど知らず、対策は進んでいませんでした。フランスのパスツ

ル研究所の島川祐輔先生からそのお話を聞いた榛田が、「治療薬が普及する前の日本と同じ状況」と感じたことをきっかけに、患者団体の有志の方たちと日本アフリカ肝炎交流実行委員会を立ち上げ、交流がスタートしました。2023年には、ブルキナファソの患者団体の代表をそれぞれ務めるドラマン・カニア博士、B型肝炎当事者のクレール・オルタン・サノンさんが肝炎デーに合わせて来日。日肝協主催の「第11回 世界・日本肝炎デーフォーラム」に参加、同時に日肝協やB型肝炎原告団等をはじめとする日本の肝炎関係者と交流・意見交換を行い、多くの方にアフリカの肝炎の実情に関心を持っていただくきっかけとなりました。

その後、この交流でできたネットワークを活用して、ピースウィングスは当地での活動をスタートしました。現地の患者団体や医師、研究者、行政などと連携して、肝炎知識や予防・検査の重要性に関す

る啓発に取り組んでいます。

毎年、肝炎デーフォーラムでは、ピースウィングスのブルキナファソでの活動を継続的に報告させていただいています。ブルキナファソに検査機器ファイブロスキャンを贈るためのクラウドファンディングを実施した際も、多くの方のご協力により目標額を達成することができました。贈られたファイブロスキャンは今も現地で活躍しています。



日本の「肝炎医療コーディネーター」を世界へ

こうして支援実績を積み重ね、いよいよ今年は私たちの最大の目的、「日本の経験を生かした取り組み」に向けて準備を開始しました。カニアさんやサノンさんから患者団体の地道な活動も実を結び、近年ブルキナファソでも肝炎の深刻さ



PBC・AIH・PSC 患者交流会

PBC(原発性胆汁性胆管炎)、AIH(自己免疫性肝炎)、PSC(原発性硬化性胆管炎)の
患者・家族の皆さん♪ 病気ごとのグループで、気軽にお話ししましょう!

日時

2026年

10月4日

14時~16時



会場

東京都難病ピア相談室

渋谷区広尾 5-7-1

東京都広尾庁舎 1階

アクセス

東京メトロ日比谷線

広尾駅 徒歩 3分

※1番・2番出口は階段のみ。
地図①~⑤は都バス停留所です。

申込方法

電話 または メールにて

- ①10/4 交流会参加希望 ②お名前
③電話番号 ④参加人数
⑤疾患名(PBC、AIH、PSC いずれか)
を明示の上、東京肝臓友の会まで
お申し込みください

電話



03-5982-2150

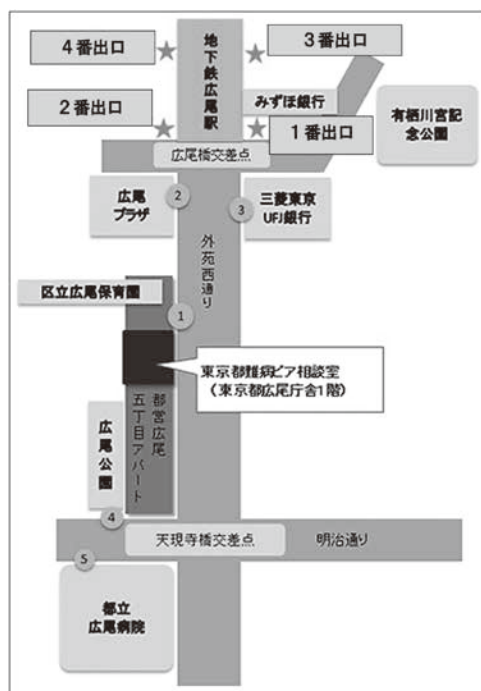
(祝日を除く火・木・金、10時~16時)

メール



seikyu@tokankai.com

(QRコードから送れます)



B型肝炎部会・ミニ講演会・相談会のお知らせ

どんな治療？

最新治療について
お答えします！

誰が対象？

講師：八橋 弘 先生（長崎医療センター名誉院長）

2026年 **10月3日(土)** 13時～14時半**会場** 日比谷図書文化館4階 セミナールームA**住所** 東京都千代田区日比谷公園1-4**申込方法** 電話：03-5982-2150 FAX：03-5982-2151
メール：kanzou@tokankai.com

①お名前 ②電話番号 ③10/3 B肝部会参加希望

FAX、メールでお申し込みの場合は①②③を明記してください

先着
20名B型肝炎の患者
ご家族の方も
ぜひご参加ください。みや かわ かのえ こ
(公財)宮川庚子記念研究財団 主催参加無料
定員10名
(要予約)

肝疾患患者さんとご家族のための／

小規模な相談会を含めた講演会

2026年 **10月18日(日)** 13:00～15:00

「B型肝炎の治療に関する最新の話題」

講師：四柳 宏 先生 国立健康危機管理研究機構 (JIHS) 理事

東京大学医科学研究所 先端医療研究センター感染症分野 教授

みや かわ かのえ こ
会場：公益財団法人 宮川庚子記念研究財団

〒107-0062 東京都港区南青山 2-19-8 Tel 03-5414-8581

申込方法：財団ホームページ(<https://mmrf.jp>)で10月初旬案内予定



みやかわ かのえこ

(公財)宮川庚子記念研究財団

第31回肝臓病医療講演会

「わが国の肝硬変・肝臓診療の現状と課題」

日時：令和8年 9月27日(日)

14:00~16:20 (開場13:30)

会場：TKPガーデンシティ渋谷 カンファレンスルーム5C
東京都渋谷区渋谷2-22-3 渋谷東口ビル 5階

挨拶：(公財)宮川庚子記念研究財団 理事 森屋 恭爾

講演：東京大学医学部附属病院 建石 良介 先生

司会：NPO 法人 東京肝臓友の会 米澤 敦子

講演に先立ち、医学功労者顕彰式を執り行います。

令和8年度医学功労者 虎の門病院分院 名誉院長 熊田 博光 先生



定員**50**名
事前登録制

入場無料

宮川財団ホームページ (<https://mmrf.jp>) 内の
「講演会申込フォーム」または右の QR コードから必要事項
記入の上送信ください。

申込メ切：9月23日(水)



【主催・問い合わせ先】

みやかわかのえこ

(公財)宮川庚子記念研究財団

TEL 03-5414-8581

FAX 03-3408-3388

ホームページ <https://mmrf.jp>

【後援】東京都

【協賛】特定非営利活動法人 東京肝臓友の会

本会報掲載の記事を転載する場合はご連絡ください。